

1. 調査報告概要表

作成日平成20年 3月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 3492700038
法人名	株式会社 富山学園
事業所名	ほのぼの苑 廿日市東
所在地	〒738-0005 広島県廿日市市桜尾本町3番21号 (電話) 0829-34-3800
評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	〒739-1733 広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成20年2月25日

【情報提供票より】(平成20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日
ユニット数	ユニット 利用定員数計 18 人 人
職員数	20 人 常勤 11 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 8.4

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 3階建ての 1階 ~ 3階部分
------	--------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(100000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	315 円	昼食	630 円
	夕食	630 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月4日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4			
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 82.9 歳	最低	76 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中尾医院 小山整形外科 石田眼科 かいで歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ほのぼの苑廿日市東は住宅地ながら所々に畑地も点在し又JR,広電廿日市両駅にも徒歩圏内で交通にも至便な場所に位置しています。設立されて約1年で運営に模索的な点もありますが、認知症への理解と介護への豊富な知識と熱意を持ったホーム長と職員の和が保たれて運営されています。多数の方々より当町内への設立の署名を得て設立された経緯もあり、ホーム行事等に近隣地域の方々の理解と協力が得られています。今後も地域の恵みを受けつつ、地域の一役が担える施設としての役割が期待されます。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	設立から約1年で模索されている部分もありますが、運営会社の厚いバックアップを得て家族や地域の要望に傾聴しつつ、改善点を見つけながら運営されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長と職員一同そして運営会社の担当職員とも協調して自己評価に当たられている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は設立当初より参加者は協力的で「近隣地域で可能な事」が議題にのせられ、家族や近隣の参加者の中には、会議に参加されることを楽しみにされている方もある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	入居者は近隣地域よりの方が殆どで家族の訪問者は多く、職員となじみな関係が培われつつあり苦情や意見は言いやすい雰囲気を作られている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近隣農家より野菜が持ち込まれることもあり、行事への協力やボランティアの協力申し入れも度々である。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人の尊厳の保持を趣旨とし、自立してその人らしく最高に生きていただくために、スタッフ一丸となって努力してまいります」と宣言され、施設が地域の多数の署名を得て設立された経緯を重く受け止めた理念が作り上げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に全員で理念の唱和がされ、一人ひとりに理念の大切さを再確認させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム設立に地域の署名を多数得ている経緯もあり、町内自治会、老人会、民生委員は大変協力的で度々訪問されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	この度の評価が初回であるが、自己評価、外部評価に対しホーム長は常に向上心を持ってスタッフの意見も汲み取り、又運営会社の担当職員とも連携を密にして利用者本位の支援に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム設立に熱い視線を得ているので運営推進会議には毎回協力的な意見が述べられ、地域の出席者(町内会長、民生委員等)の積極的な意見交換の場ともなり、今後のホーム運営にも大きな望みにもなる。		

ほのぼの苑 廿日市東

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域に快く受け入れられている施設であることで、市介護保険係も協力的に相談に応じてもらえる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者は近隣廿日市周辺よりの方が多く、家族の訪問回数が多いため口頭での話し合いや電話でも顔の見える関係で会話が出来、相談や報告が容易にできる。定期的に書面で苑よりは家族に送られている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの雰囲気は和やかでホーム長は親しみやすく、家族の意見は表出しやすいとのアンケートの意見が多く認められた。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎の職員の配置でなく全職員が両方のユニットに馴染みになる職員配置である為、信頼関係が作られている。過去1年間ではダメージの現象は見受けられなかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営会社のホーム担当職員は介護支援の強い協力者であり、ホーム長との協力体制もよく、職員研修の機会作りを担当したりホーム内での職員のレベルアップにも多々努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長間での親しい交流を通して情報の交換がされている。		職員間での施設間交流を職員は望んでいる、今後の課題として取り組まれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者、家族との綿密な話し合いの上で、生活歴や現状の把握を十分し、其の後体験入居が行われた後にサービスの利用をされる運びとなる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者の持たれている知恵や知識をくみ取れる会話や言葉かけを常にしよう努めている。おやつ作りや日常生活のひとこまに大変役立つことがある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員全員が利用者の生活歴や得意部門を把握しており、利用者本位の支援を話し合いながら日常生活の穏やかさを保つ努力をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプランを作成する担当者だけに任すことなくユニット毎に本人や家族の意向を取り入れ、意見の交換を重ねて介護計画書の作成をしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>通常は6か月毎の見直しが行われているが、変化が見受けられる場合は、一人ひとりの現状に合わせて、本人、家族と相談をしながら計画の作成が行われている。介護度が3より2に、2より1にと改善された利用者もあつた。</p>		<p>職員は利用者の体調に合わせた歩行訓練や、できるだけ車いすでの移動を少なくして歩行介助で移動するなどを重点に行い、介護度の軽減につながっている。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の支援を受けて設立された施設である利点を十分に生かし、今後も地域密着に支えられ又ホームとして地域に役立つことを見つけてゆきたいとの説明があった。		今後も地域よりの協力体制の利点を生かされ、利用者の自由な外出の支援と共に、鍵をかけない支援が実行に移されることを期待します。
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者の掛りつけ医は協力医院で1か月に1回ホームへの往診をされている。利用者や家族との信頼関係は築かれている。その他の利用者は家族がかかりつけ医に同伴又は依頼されれば職員が介助同行することもある。緊急時はJA広島総合病院で受け入れられることが確約されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や急変時の対応等について説明は行っている。急変時には家族、医師と話し合いを持つ方針である。		「地域でその人らしい生活を、、、」という生活の延長上で、今後利用者が加齢による重度化に備えて運営会社、施設等の受け入れの側の取り組みが利用者や家族より寄せられると予想されます。
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自分の居室を忘れる利用者には名前札をされているが、方針としては無記名である。書類上の個人情報については職員全員で守る体制である。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画をもとにして一人ひとりの好みを職員間で共有し声かけをして、共に過ごす時間を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の介助を受けながら、野菜の皮むきをされる利用者やテーブルの用意をされる方の様子が見受けられ、食事後は下膳される方、時間をかけて食器洗いをされる利用者を見受けた。時折仕事の奪い合いになることもあると説明があった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、時間は職員の配置時間の関係で大枠は決められているが、なるだけ希望を聞き入れている。入浴時間の順番など利用者でパターンを決めている方もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの好きなことや出来ることをよく把握して、買い物や散歩など、その方に合った支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の中には外出を好まない方もあるが、外出願望の方には回数が平均するよう考慮しながら、職員が交代で買い物などに同行支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠していないが、道路に面した玄関は施錠されている。ホームが宮島街道(旧国道)の裏道に面し、通り抜け道で交通量が多い時間帯もあり施錠は不可避であると説明がされた。外出の希望には必ず職員が応じて同行している。		玄関の施錠については安全確保の観点から、廿日市市役所からの承認も得ている。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回職員の担当者を決め避難訓練を実施している。利用者を誘導しての避難訓練の困難さを全員で体感し危機管理に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は記録され、個別の支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には運営会社より所蔵されている大型絵画の額が展示され、観葉植物の植木鉢も数か所に置かれて、落ち着きのある居心地の良さが醸し出されている。ホールには職員の厚意で持ち込まれた雛人形が飾られて季節感を感じさせている。		特記 所々に絵画が飾られている雰囲気は高齢者ばかりの居室であることを感じさせないモダンさと活力感があることを特記したい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅より持ち込まれたタンスや小物入れが置かれ、自作の置物を飾って楽しまれている方もあった。職員は絵画や工作などの得意分野を持って入居者をサポートし共に制作した小物等も室内に飾られて和やかな雰囲気が作られている。		